平成２８年度全国学力・学習状況調査の公表に係る教育長コメント

平成２８年９月２９日

本年４月１９日に実施しました全国学力・学習状況調査の結果が、本日、９月２９日、公表されました。本年度は、悉皆調査としては７回目、抽出調査を併せると９回目の調査となります。

はじめに、本県の児童生徒の学力の定着状況については、調査が始まった平成１９年度からの経年変化を見ますと、小・中学校ともに改善傾向にあります。また、本年度の調査結果からは、特にここ数年足踏み状態であった中学校の学力の伸びについて、踊り場状況から脱する兆しを見せていることがうかがえます。

次に、それぞれの校種・教科の状況を見ますと、小学校の国語・算数について、まず、知識や技能を問うＡ問題においては、全国平均を 2.8～4.3 ポイント上回る状況にあります。また、活用する力を問うＢ問題においても、ほぼ全国平均と同等の結果を残しており、小学校の学力については、昨年度に引き続き全国的にも上位の位置にあります。

中学校については、国語のＡ問題で全国平均との差が－0.2 ポイント、同Ｂ問題でも－1.3 ポイントのところにまで詰めてきております。また、数学については、Ａ問題で全国平均との差が－3.7 ポイント、同Ｂ問題では－4.0 ポイントとなっており、昨年度に比べると、全国平均との差を 0.8～1.4 ポイント縮める状況となっております。

このような結果は、各学校が、授業において目標を明確に示し、また、学習の振り返りの活動を設定するなど、組織的に授業改善に取り組んでいる成果の表れであると思います。

また、質問紙調査の結果を見ますと、「学校の授業時間以外に勉強している時間が１時間以上」の小学生の割合は全国平均を上回っており、中学生についても年々増加し、全国平均に近づいてきています。こうした結果からも、小・中学生には、学習習慣の定着が図られてきていることがうかがえます。

こうした学習状況の改善は、児童生徒の努力や保護者の協力によることは勿論のこと、各学校の授業と家庭学習をつなぐ仕組みの改善や放課後学習などの熱心な取組によるものと感謝するところです。

しかし、その一方で、中学校においては、国語・数学ともに未だ全国平均に達しておらず、また、小・中学校ともに、Ｂ問題に対応する獲得した知識や技能を活用して課題の解決を図る力等の育成の点では、まだ十分な状況ではありません。

今後は、これらの残る課題の解決を図ると同時に、これからの時代において求められる思考力・判断力・表現力等をしっかりと育成するよう、さらに授業改善に取り組んでいく必要があり、そのためにも、組織力や授業力の向上を図るチーム学校の構築を推進するなど、「高知県教育大綱」や「第２期高知県教育振興基本計画」に基づく取組を着実に進めてまいります。

高知県教育長　田村　壮児